

テーマ：6月上中旬貿易統計
～輸出は明確に持ち直し～

発表日：2011年7月8日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

本日、財務省から2011年6月上中旬の貿易統計が発表された。これによると、輸出金額は前年比▲3.9%となり、5月月間の同▲10.3%から減少幅が縮小した。旬別に見ると、上旬が前年比▲1.6%、中旬が同▲6.6%である¹。

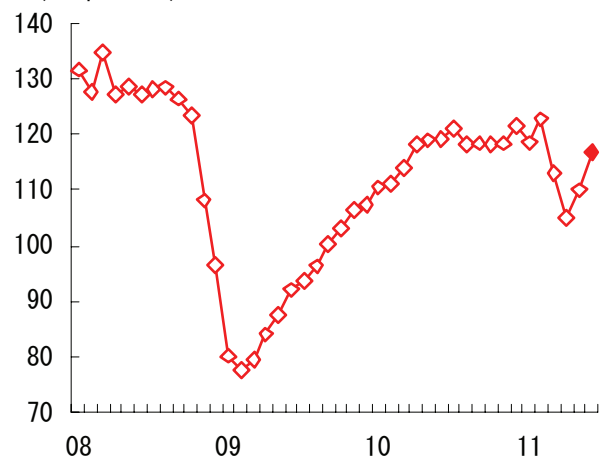
仮に6月月間の伸び率が上中旬と同じ伸び（▲3.9%）になったとして試算すると、6月の実質輸出（日本銀行試算ベース）²は季節調整済み前月比で+6.3%になる（名目では前月比+2.8%）。5月の同+4.7%に続いて2ヶ月連続で高い伸びになる可能性が高いだろう。サプライチェーン寸断により輸出向け生産が滞ったことで3、4月の輸出は大幅に落ち込んだが、サプライチェーンの復旧が進んでいることから、4月を底として足元の輸出は明確に増加している。

また、6月上中旬の輸入金額は前年比+10.9%となった（上旬：+10.2%、中旬：+11.8%）。5月月間の同+12.3%からは伸びが小幅縮小したものの、引き続き高い伸びが続いている。資源価格の高止まりや代替輸入の増加、火力発電用の燃料輸入増等が影響している可能性があるだろう。仮に6月月間の伸び率が上中旬と同じ伸びになったとすると、季節調整済み前月比は名目で+0.8%、実質で+0.4%となる。名目、実質とも3ヶ月連続の増加である。

6月上中旬の貿易収支は1159億円（原数値）の赤字になっている。ここで、上中旬の輸出入伸び率を元にして計算すると、6月月間の貿易収支は原数値で1243億円の赤字となる（5月月間：8558億円の赤字）。また、季節調整値では3982億円の赤字になる（5月月間：4746億円の赤字）。3ヶ月連続で貿易赤字になる可能性は高いだろう。ただし、6月は輸出の伸びが大きいことから、赤字幅は5月から縮小する見込みである。

なお、輸出は5、6月と高い伸びになっているものの、3、4月の落ち込みが大きかったことから、実質輸出の4-6月平均の値は1-3月期の水準を6.3%ポイント下回る（6月は前述の試算値通りと仮定）。4-6月期の輸出は大幅な減少となる可能性が高いだろう。一方、4-6月期の実質輸入については1-3月期を2.3%上回っている。4-6月期の外需寄与度は大幅なマイナスになる可能性が高く、同期のGDPを大きく押し下げる要因になるだろう。

(05年=100実質輸出の推移（季節調整値）



(注)2011年6月の値は上中旬の値から計算した試算値
(出所)日本銀行「実質輸出入」、財務省「貿易統計」より作成

¹ 6月上中旬の平日日数は14日であり、昨年と同じである。上旬（8日）、中旬（6日）とも変わらない。

² 輸出入物価は未公表のため、筆者による予測値を用いた。